

キリストへの時間

「キリストへの時間」協力委員会報

ラジオ伝道の可能性

金城学院大学宗教主事 吉松 純

私は大学からニューヨークに留学しアメリカ在住38年半、内23年は米国合同メソジスト教会の牧師として3つのアメリカ人教会にお仕えしました。その間に地元のクリスチャン放送局から説教の依頼が何度かありました。しかし私はその都度お断りしてしまいました。牧会で忙しかったことが1番の理由ですが、実は英語で説教することに自信がありませんでした。「38年半もアメリカに暮らしていながら？」と不思議に思われる方も多いでしょうが、ネイティブと比べると私は自分の日本的な発音にはコンプレックスがありました。今考えるともったいないことをしました。伝道の為に積極的に引き受けるべきでした。

自分にとっては深刻な悩みであっても、案外、他者から見ると些細なことで私たちは神から与えられたせっかくの機会を逃すことがあります。でも神は決して私たちを諦めません。まるでヨナの話のように。2月に凶らずも金城学院大学の宗教主事ということでラジオ放送キリストへの時間でお話をさせていただきました。神が私にセカンドチャンスを下さったと受け止めています。

さてせっかくですからアメリカのクリスチャン放送について書きたいと思います。アメリカのラジオ局の多さは日本の比ではありません。クラシック専門、ジャズ専門、カントリー・ウエスタン専門、ロック専門、時事放談専門など何十、何百と局があります。クリスチャン放送局はどの州にもあります。伝統的礼拝放送や若い人向けの放送、カトリック放送、言語も英語やスペイン語、韓国語など幾つもの伝道放送があります。クリスチャン放送局も小さい事務所的な所から放送局を丸ごと持っている所まであり、ほとんどが自分の局

を持っています。広告収入や献金、コンサートなどの事業を展開して手堅く運営しています。

金城に来る前の赴任地のトリニティー合同メソジスト教会では若い人や家族向けにプレイズ讃美野外コンサートを3夏に渡り開催しました。東海岸を中心にロックやフォーク・ソングのような賛美をするバンドを5～8グループ招待して夏休みの週末に讃美集会コンサートをもちました。地元のクリスチャン・ラジオ局の協力でバンドを紹介していただき、当日まで毎日ラジオで宣伝を流し、コンサートもラジオで生中継していただくなど世話になりました。

ラジオ放送ですが上述のように様々なジャンルの局がありますが地方によって専門性が変わります。例えばケンタッキーやジョージアなど南部に行くとクラシック専門の局が減少し、ボストンなどに行くとカントリー・ウエスタンの局が少なくなります。しかしクリスチャン放送は全国どこでも流れており聴くことができます。南部にドライブ旅行した時など、ほぼ全ての局がカントリー・ウエスタンばかりで飽きてしまいました。そんな時にクリスチャン放送の讃美を聴いてホッとしたものです。

またある時、説教作りに行き詰まったことがありました。その折にはクリスチャン放送の説教にヒントを得たり、プレイズ讃美放送を聴いて教会の讃美礼拝に取り入れたり様々な形でクリスチャン放送に助けられました。信徒数が圧倒的に少ない日本でのクリスチャン放送には色々難しいことがあるかと思いますが、ラジオ伝道には大きな可能性があります。キリストへの時間の更なる発展、展開を心からお祈りいたします。

「隣人とは誰か」

日本キリスト改革派教会豊明教会会員 吉住 隆弘

ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見て憐れに思い、近寄って傷に油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分のろばに乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。そして、翌日になると、デナリオン銀貨二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『この人を介抱してください。費用がもっとかかったら、帰りがけに払います。』さて、あなたはこの三人の中で、だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか。」律法の専門家は言った。「その人を助けた人です。」そこで、イエスは言われた。「行って、あなたも同じようにしなさい。」

ルカによる福音書 10 章 33 節～ 37 節

私は大学で臨床心理学を学生に教えながら、カウンセリングという仕事をしています。現代のストレス社会を反映して、性別、年齢に関係なく、疲れ、心を病んだ方がカウンセリングに訪れます。不登校や発達障害の子どもを抱え、子育てに悩むお母さん、幼少期からの親子関係に葛藤を抱えている人、会社での人間関係を悩んでいる人、その相談内容も様々です。

カウンセリングでは、ただ話を聞いているだけではありません。相談者が抱えている無意識の葛藤を解釈したり、問題を悪化させている不合理な信念への気づきを促したりと、相談者の問題に合わせて、カウンセリングに関する各種理論に基づいたアプローチを行います。一方、カウンセラー自身に求められる態度も重要とされています。来談者中心療法を提唱したカール・ロジャーズは、カウンセラーが、相手を受容し、共感し、そして自身が誠実であることが重要であると言っています。共感の重要性は一般的にも言われますが、これは簡単なようで、実際に相談者を前にすると、如何に難しいかが分かります。

負の体験をされた方の話に耳を傾けることは、話を聞く者の心に、目に見えない負荷を与えます。行き場の無い怒りを激しくぶつけられることもあります。どちらかというと相談者の鬱々とした思いが、じわりじわりと私の中に溜まっていくように感じられます。

ですから、気付いた時にはぐったりということも多いように思います。こういうことが続くと、正直に言いまして、相談者ともう会いたくないと思ったり、うわべだけで話を聞いてしまったり、時には相手を内面で非難したりしていることもあります。そしてそういう自分に気づいても、仕方のないことだと開き直ることもあります。

このような時に、頭に浮かぶのが今回のみ言葉です。これはイエスを試そうと「隣人とは誰か？」と質問する律法学者に対して、イエスが行なった有名な例え話です。旅の途中で強盗に襲われ、瀕死の状態で道端に倒れているユダヤ人。そこを通りかかった祭司やレビ人は見て見ぬふりをし、助けずに通り過ぎます。結局、このユダヤ人に手を差し伸べたのは、当時ユダヤ人から軽蔑され、忌み嫌われていたサマリア人でした。「ひどい目にあったこの人の隣人になったのは誰か？」とのイエスの問いに対し、先の律法学者は「助けてあげた人です」と答えます。そしてイエスはその律法学者に「行って、あなたも同じようにしなさい」と伝えます。

このみ言葉は、私に二つの問いを投げかけてきます。一つは、「私は果たして相談者の隣人になり得ているのか」という問いです。このみ言葉が語られた文脈を考えてみますと、元々これはイエスの言葉尻を捉えようとした律法学者に向けられたものでした。おそらくこの律法学者は、良い行いができていると考え、そういう自分に満足していたのだと思います。聖書には律法学者のその後のことは記されていませんが、その律法学者は、「隣人とは誰か」と問い返されたことで、自身のおごりに気付かされたのではないのでしょうか。私自身に置き換えると、相談者の話を聞きつつも、内面では否定的な態度を取っている自分は、まさしくユダヤ人を放置していった、祭司やレビ人の姿と重なるように感じられます。律法学者同様、カウンセリングという行為自体に満足を覚えていた自分に気づかされます。

もう一つの問いは、「そもそもここでいう隣人とは誰なのか」というものです。このみ言葉は、律法学者

に対して、本当の主に立ち帰れという意味を持ったメッセージだったのではないのでしょうか。すなわち、このみ言葉が本当に伝えたかったことは、私たち自身が隣人になることではなく、私たちは本当の意味で隣人になることはできないこと、そして他でもないイエス自身が私たちの隣人になってくれていることを知ることにあるのではないかと思います。私自身も主の前では重荷を抱えた存在であり、そのような私たちの傍

に、イエスが隣人として共に居てくれていることに気付かせてくれるみ言葉と感じます。

そう考えると、私にできることは、その恵みに感謝し、不十分ながらイエスの姿に倣うものとして、相談者に寄り添うことではないかと感じます。相変わらず否定的な思いを抱いてしまう自分ですが、そんな自分でも何かできることはないだろうか、相談者の訴えに耳を傾けていきたいと祈り願っています。

2018年度「キリストへの時間」会計報告

2018年4月1日～2019年3月31日

キリストへの時間. 収支計算書(2018年度)

収入の部	決算	支出の部	決算
日キ教団. 教会献金	400,600	電波料	3,525,120
日キ教団. 個人献金	672,300	会報印刷	118,600
改革派. 教会献金	888,347	会場費	3,160
改革派. 個人献金	265,000	庶務費	2,936
金城学院関係	1,308,500	通信費	44,180
名古屋学院関係	490,000	委員会費	1,080
岐阜済美学院関係	300,000	基金へ	500,000
その他. 利息等		郵便振替手数料	14,300
小計	4,324,747	小計	4,209,376
前期繰越	220,102	次期繰越	335,473
合計	4,544,849	合計	4,544,849

「献金者」

■学院関係(複数回献金学院を含みます)

金城学院	金城学院高校	名古屋学院	名古屋学院	岐阜済美学院
1,000,000円	8,500円	100,000円	70,000円	300,000円
金城学院みどり野会		名古屋学院大学 キリスト教センター		
300,000円		320,000円		

■日本基督教団(複数回献金教会を含みます)

名古屋教会	岡崎教会	金城教会	豊橋教会	鳴海教会
愛知教会 コーヒーコーナー	尾陽教会	御器所教会	豊山教会	西尾教会
愛知西地区教会 婦人会連合	春日井教会	瀬戸永泉教会	日進教会	半田教会
愛知守山教会	華陽教会	中京教会	名古屋北教会	半田教会バザー献金
熱田教会	刈谷教会	天白教会	名古屋桜山教会	南山教会
恵那キリスト教会	金城教会 社会福祉委員会	豊田教会	名古屋中央教会	中部教区婦人委員会
大台めぐみ教会				

■日本キリスト改革派教会（複数回献金教会を含みます）

中部中会	春日井教会・サフラン会	多治見教会	姉妹会	豊明教会	名古屋岩の上教会
犬山教会 姉妹会	金沢教会	中部中会信徒研修会	那加教会	八事教会	
太田教会	岐阜加納教会	中部中会長老会	那加教会・婦人会	四日市教会	
尾張旭教会 姉妹会	桑名教会	中部中会 連合婦人会	長久手教会	四日市教会 家長会	
春日井教会	関キリスト教会	津島教会	中津川伝道所		

■個人献金者（複数回献金者を含みます）

宮内英夫	奥田英子	下村展子	藤條聡杏	横山ゆずり
麻田雅子	尾関 明	新海眞行・美智子	藤條聡彦	横山良樹
足立克己	神村雅子	関 光徳	藤條淳子	吉田香代子
安達昭子	川口正・美智子	高岡俊夫	藤本岩夫	栗田昌子
渥美 誠	河村輝昭	田口博之	堀田時男	青山昭一郎
粟田昌子	神田輝夫	田口靖章・愛子	堀江桂子	石井正治郎
石原頼子	神部一子	竹内織江	前田榮子	伊藤忠雄
伊藤 敦	菊池すみ子	竹内治枝	牧野愛子	井上正治
伊藤八千穂	木村智恵子	竹内喜保	牧之瀬留津	井上義明
伊藤まり子	木村艶子	塚田 昇	松田和子	小栗和明
伊藤道子	久野みさき	塚本千寿	松田喜代	杉山 敏
伊藤裕子	黒木伊津子	津田康裕	松本勝正	杉山清美
井戸美代子	桑原 茂	天沼康司	眞野 久	竹沢芙美子
岩佐敏志	児島昭彦	戸田安士・喜代子	宮内英夫	中根汎信
岩淵正樹	児島千香子	中野悦美	宮地潤子	中根文江
榎本久美江	小谷治郎	中村寿子	三輪淑子	西堀則男
榎本弘子	小寺英明・正子	成瀬伸子	村上聡恵	長谷川正一
遠藤幸代	小林成隆	新美洋子	村瀬明子	羽野 環
遠藤芳男	小森純江	野田和子	村瀬文男	藤澤深根子
大島 隆	榊原いずみ	服部治昭	森前陽子	三田村苗美
大谷京子	榊原善夫・有子	花木和子	安野美根子	匿名
太田弘子	篠田 顕	林 滋	山田春日・毛利義也	
大塚美七子	篠田恵見	藤沢準一	山田詩郎・麻衣子	
木村綾子	柴川マリ子	藤沢礼子	山田紀子	
岡本正治	下村徹嗣	藤條聡美		

60 年記念誌 本編Ⅱ 回想録より

敗戦後の日本の光を求めて

「キリストへの時間」元会計（元主事）

長村 秀勝

多くの若者が軍歌と小旗に送られて戦地へ送られました。しかし、多くの若者は白い布切れに包まれた小さな箱と化してしまいました。多くの引揚者、復員者が焦土と化した故郷を見て、焦りと虚無感から逃れる

かのように、「民主主義」「自由・平等・博愛」「マルクス主義」と言う言葉が明るい未来を約束するかのよう、瞬く間に人々に広まって行きました。勝者の宗教である「キリスト教」であるにもかかわらず、人々は、教会に何かを求めました、戦後間もなくのキリスト教ブームが起こりました。知識人、文化人と言われるインテリ層には、舶来思想でもあったのでしょうか。

日本人のこの現象を、アメリカのある社会学者は、皮肉って「ライスクリスチャン」と揶揄していました。そのような時代を経験しながら、1ドル360円時代

が、日本を覆って行った。戦後建てられたバラック小屋の多くの木造教会やかまぼこ兵舎の集会所は、進駐軍の廢材、払い下げといわれていました。

そのような世相とは別に、ラジオからアメリカン音楽が流れ、否応なく日本人の变革が起こりました。戦中の弾圧下にあった教会も、信仰の自由・集会結社の自由の中で、新しい日本建設の一翼を担うべく、「宣教」の思いとして、いろいろの宣教活動が産声を上げました。

時代は違いますが、私の手元には、昭和5年1月7日発行の「神の国新聞」（編纂人富田 満（神の国運動事務所代表）・発行人松野菊太郎（教文館代表））の一頁が「論説」日本教化の理想・賀川豊彦とある新聞です。この新聞には、その当時の政党演説会が各地の公会堂で行われていたのと同じように、別の意味で社会のあらゆる問題に挑んでいった先人の熱い姿がありました。

時は違っても「ラジオ伝道」への思いは共通するものがありました。都会向けではなく、意図したものか分かりませんが、山間僻地と言われる地方の村々の一人ひとりに語りかける福音宣教であったと思われます。その活動が、後々の都会の教会員の中心をなしたことは、神様の摂理として理解しています。

その魁が「ヴォイス オブ アメリカ」と言う短波放送であり、電波法の改正・日本返還で、福音宣教の一つの手段として用いられると共に、主だった都市や地方都市には民間放送局が誕生したことは、ラジオ伝道の広がりをもたらしました。しかし、その経営・運営は日本経済と同様に困難を極め、地方局の番組表は空き時間が多く見られたようです。安定した電波料を持つ宗教団体、特に、中国などで活動していた外国宣教団は、諸般の困難な課題のゆえに、その地から日本へと変わりました。そうした事情からか、日本のキリスト教団体との協力で参加する機会となったでしょう。

「キリストへの時間」の放送の局数も飛躍的に拡大して行った経過は資料でもお分かりいただけることでしょう。（※）放送時間の変更は、地方局の希望に沿って変更した面があります。

<短波放送>

短波放送ブームがありました。敗戦当時の若者が乏しい機材を集めて、ラジオを組み立て、かすかに聞こえる鉱石ラジオで知った外国との交流が、次の若者世

代には短波受信で外国との交流を求め、受信局から送られるカードを集めるブームが起こりました。

「キリストへの時間」の「アンデスの声」も日本から在外邦人へ日本語の福音を届ける思いで、参画したものです。中部日本放送で録音したテープを太平洋放送協会（旧極東放送）に送り、それを、他のラジオテープと共に南米向けの「アンデスの声」への船便として送るルートがありました。「アンデスの声」のキー局建設は北米にある団体が建築費用・放送に関する人的支援によって設立されたものと記憶しています。

名古屋の主税町の事務所にも、レスポンスの便りが届くようになりました。船便であったり、航空便でもありました。日本の風土の香りのする放送に、その苦難の思いと遠く日本を懐かしむ言葉が綴られたお便りばかりでした。

政治的な事情かどうかは別にして、日本から送られたテープは必ず放送されるとは限らなかったようです。厳しい政府の検閲があったり、政治的なニュアンスのある言葉や音楽・讃美歌のテープは放送できないとか、季節のずれや時間のずれなどで放送できなかったことが多々あるような感じのお便りがありました。

数年の間には何回か、手紙の開封がありました。こちらからの返事で、日本の普通の政治の記事や社会の出来事を書き記すと開封されて、当局の受取人リストが出来ていたやに、後で知りました。返信のお便りの内容についても、配慮を求める文言がありました。また、希望されて送った印刷物や聖書は、殆ど途中で紛失か没収かで受け取れなかったことが、後に、故郷の岐阜に戻った方とお会いして、知らされました。官憲による戦時下の教会の困難さを思い知る貴重な体験を短波放送で体験しました。

ラジオ伝道「キリストへの時間」の主事として、個人的な記憶にとどめるのではなく、批判をいただいても記録として留めたいと思い文章にしました。

参考資料

「神の国新聞」

「昭和史年表」大正12年9月1日—昭和60年12月31日 神田文人編（株）小学館

<インターネット> 団塊の世代の思い出「昭和のあれこれ」（1950～70年代）

※ 60周年記念誌 121頁

「その響きは全地に！」

毎年1月の「キリストへの時間」は信徒の方がお話しを担当してくださっています。今年は改革派教会の信徒の方がご担当くださいました。

その放送を聴いたことがきっかけで、新しい方が教会の礼拝を訪れたとの嬉しい報告が協力委員会でなされました。主が確かにこの放送を通して働かれています。牧師のみならず信徒の方の言葉を通して主が豊かに御業を起こしてくださることを垣間見、感謝の祈りを献げました。主が

宣べ伝えよと命じてくださり、用いてくださるのですから、キリストの者とされた皆で主を証していきたいと思われました。

日本キリスト改革派教会と日本基督教団で交互で担当していますから、2020年1月は日本基督教団の信徒の方に担当いただきます。声をかけられたら断らずに、ぜひ主を証してくださいますように。「その響きは全地に、その言葉は世界の果てに向かう。」(詩編19編5節)

「キリストへの時間」協力委員 山田詩郎



「キリストへの時間」放送予定 2019年7月～12月

7月

7日 琴ひかる (名古屋学院 名古屋高校 聖書科教諭)
14日 高見伊三男 (名古屋学院大学 宗教部長・スポーツ健康学教授)
21日 神山美奈子 (名古屋学院大学 商学部講師)
28日 文禎顥 (名古屋学院大学 経済学部准教授)

8月

4日 三輪誠 (日本キリスト改革派浜松教会牧師)
11日 三輪誠 (日本キリスト改革派浜松教会牧師)
18日 相馬伸郎 (日本キリスト改革派名古屋岩の上教会牧師)
25日 相馬伸郎 (日本キリスト改革派名古屋岩の上教会牧師)

9月

1日 松本周 (日本基督教団中京教会牧師)
8日 松本周 (日本基督教団中京教会牧師)
15日 小椋実央 (日本基督教団瀬戸永泉教会牧師)
22日 小椋実央 (日本基督教団瀬戸永泉教会牧師)
29日 横山良樹 (日本基督教団半田教会牧師)

10月

6日 小橋口貴人 (日本キリスト改革派那加教会牧師)
13日 小橋口貴人 (日本キリスト改革派那加教会牧師)
20日 長谷川潤 (日本キリスト改革派四日市教会牧師)
27日 長谷川潤 (日本キリスト改革派四日市教会牧師)

11月

3日 高木総平 (岐阜済美学院宗教総主事)
10日 高木総平 (岐阜済美学院宗教総主事)
17日 志村真 (中部学院大学非常勤講師)
24日 西島麻里子 (済美高等学校宗教主事)

12月

1日 田中真希子 (日本基督教団名古屋桜山教会牧師)
8日 田中真希子 (日本基督教団名古屋桜山教会牧師)
15日 小田部正一 (日本基督教団シルバーホームまぎば施設長・宗教主事)
22日 小田部正一 (日本基督教団シルバーホームまぎば施設長・宗教主事)
29日 田口博之 (日本基督教団名古屋教会牧師)

「キリストへの時間」協力委員会 編集発行人 横山良樹

郵便振替 00880-1-70404・キリストへの時間

キリスト教や聖書についてご質問のあるかた、この放送についてのご意見ご感想のあるかたは、以下にお便りください。また、ご希望の方には新約聖書を無料でお送りいたします。

〒461-8691 名古屋東郵便局私書箱170「キリストへの時間」まで

CBC ラジオ「キリストへの時間」(1053kHz) 毎週日曜日 朝6時30分～6時45分放送